

女性の肌トラブルに対する人參養榮湯の効果

中村皮ふ科クリニック(新潟県) 中村 元一

女性にとって肌のトラブルのなかでも乾燥は年齢と関係のない悩みである。皮膚の乾燥は表皮角層における水分保持機能の低下が要因としてあげられるが、疲労倦怠やストレスによっても悪化することが知られている。そのため、肌状態だけでなく、全身状態を含めた管理が重要である。そこで、疲労倦怠感や食欲不振を伴い、肌の乾燥感を訴えた30代以降の女性患者を対象に、気血双補剤の人參養榮湯を4週間投与したところ、有効 40.4%、やや有効 59.6%と良好な成績が得られ、乾燥肌及び疲労倦怠感に改善が認められた。人參養榮湯は乾燥肌及びその背景にある気虚症状の改善に有用であることが示唆された。

Keywords 人參養榮湯、乾燥肌、疲労倦怠感

緒言

加齢、ストレス、ライフスタイルの変化、ホルモンバランスの乱れにより、肌のトラブルを自覚する女性は多い。女性にとって乾燥、肌荒れ、しわ、シミなどの肌のトラブルは、QOL (quality of life) を低下させる要因の一つとなる。中でも乾燥は年齢と関係のない悩みである。20～50代の女性を対象に肌の悩みに関するアンケートを実施したところ、すべての年齢層で乾燥が5位以内にランクインしたとの報告がある¹⁾。皮膚の乾燥の原因は表皮角層における水分保持機能の低下が一つの要因としてあげられ、対処法としては保湿剤の塗布や生活指導によるスキンケアが実施されている²⁾。肌状態は疲労倦怠やストレスによっても悪化することが知られており³⁻⁴⁾、全身状態を含めた管理が重要である。

東洋医学では、肌状態を皮膚表面の局所でもとらえるのではなく、東洋医学的概念である気血水や五臓を用いて全身からとらえる。漢方薬は肌状態及びその背景にある全身状態の悪化の抑制効果が期待できる。

そこで今回、疲労倦怠感や食欲低下を伴い、肌の乾燥感を訴えた30代以降の女性患者に漢方薬である人參養榮湯を投与し、改善が認められたので報告する。

対象および方法

当院を受診し、疲労倦怠感や食欲低下を伴い、肌の乾燥感を訴えた30代以降の女性患者で、人參養榮湯投与に同意を得られた57例を対象とした。対象患者にクラシエ人參養榮湯エキス細粒1日7.5gを4週間投与し、以下の項目

を調査した。保湿剤、外用剤や他の漢方製剤を使用している患者は除外した。

調査項目

(1) 乾燥の程度

表に示す4段階で投与前および投与後に評価した。

(2) 患者アンケート

乾燥感、粉ふき、ひりひり感、赤み、潤い、化粧のり、明るさ、すべすべ感、肌弾力、疲労倦怠感、食欲低下に関して、5段階「0：全くない(良い)」、「1：あまりない(やや良い)」、「2：どちらともいえない」、「3：ややある(やや悪い)」、「4：とてもある(とても悪い)」で投与前および投与後に評価した。

(3) 患者満足度

患者へ聞き取りを行い、「十分満足」、「満足」、「やや不満」、「不満」の4段階で投与後に評価した。

(4) 有効性

これらの結果を総合的に判断し、「有効」、「やや有効」、「無効」、「判定不能」の4段階で投与後に評価した。

統計学的検討はwilcoxon signed rank testを用い、 $p < 0.05$ をもって有意と判定した。

表 乾燥の程度

乾燥の程度	症状
なし	皮膚乾燥は認められない
軽度	わずかに乾燥し、鱗屑が付着している
中等度	明らかに乾燥し、やや大型の鱗屑が付着している
高度	高度に乾燥し、大型の鱗屑が付着している

結果

(1) 患者背景

対象患者の内訳は、年齢30～65歳(平均45.5±8.7歳)、平均身長159.0±2.8cm、体重52.3±4.8kg、BMI 20.7±2.2であった。

(2) 乾燥の程度

人參養榮湯投与前では高度2例(3.5%)、中等度38例(66.7%)、軽度15例(26.3%)、なし2例(3.5%)であり、投与後は高度0例(0%)、中等度0例(0%)、軽度30例(52.6%)、なし27例(47.4%)と推移し、投与前と比較し投与後において有意な改善が認められた(図1)。

(3) 患者アンケート

アンケートが回収できた7例について検討したところ、乾燥感、ひりひり感、赤み、潤い、化粧のり、明るさ、すべすべ感、肌弾力で、投与前と比較し投与後において有意な改善が認められた(図2)。

(4) 患者満足度

十分満足47例(82.5%)、満足10例(17.5%)であった。

(5) 有効性

有効23例(40.4%)、やや有効34例(59.6%)であった。

図1 乾燥の程度

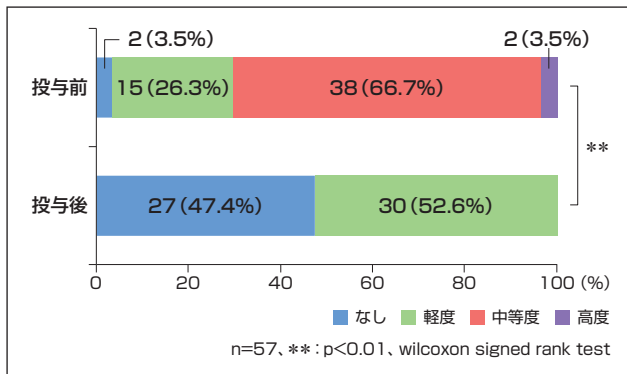
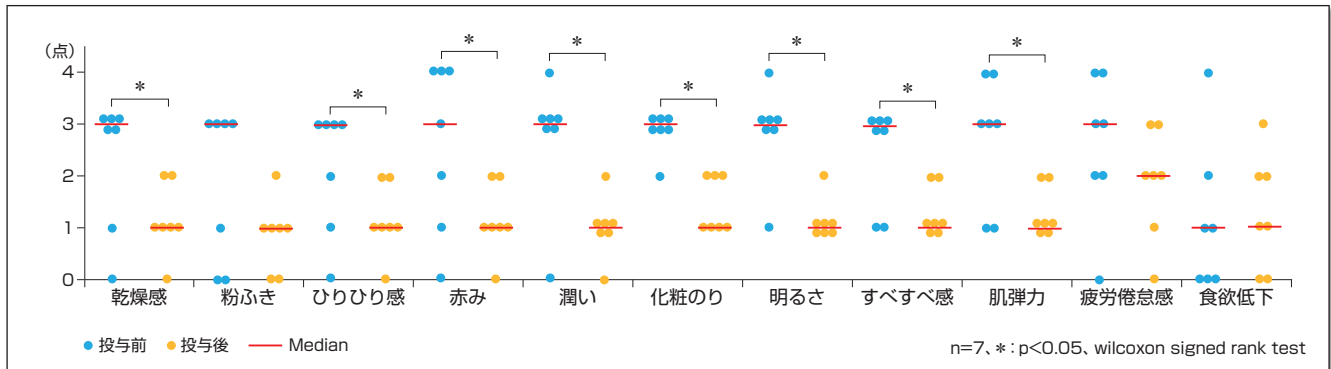


図2 患者アンケート



(6) 安全性

調査期間中、人參養榮湯が原因と考えられる副作用は認められなかった。

考察

皮膚の最外層にある角層は皮膚を乾燥などから守るバリア機能と水分保持機能を担っており、角層が水分を保持することで、肌の潤い、ハリ、滑らかさ、柔らかさを維持している。通常、角層の水分量は10～20%であるが、水分量の減少とともに肌は乾燥し、10%より少なくなると角層のひび割れや肌荒れが生じ、さらに減少すると鱗屑や過剰な落屑を生じるようになる⁵⁾。漢方医学では、乾燥肌は血虚と考えられており、肌に与えられるべき栄養が不足している状態である。人參養榮湯は補血の基本処方である「四物湯」と補気の基本処方である「四君子湯」に黄耆・五味子・陳皮・遠志を加え、川芎を除いた12種類の生薬で構成されている。今回、疲労倦怠感や食欲低下を伴い、肌の乾燥感を訴えた30代以降の女性患者に気血双補剤である人參養榮湯を投与したところ、乾燥の程度と自覚症状が有意に改善した。人參養榮湯を皮膚科領域の乾燥肌の改善に使用した報告は少ないが、シェーグレン症候群の眼及び口腔の乾燥症状や口腔乾燥症に用いられた報告も散見される⁶⁻⁷⁾。人參養榮湯の構成に含まれる四物湯は乾燥性皮膚疾患の患者に対する角層の水分保持能の改善が報告されていることから⁸⁾、人參養榮湯にも同様の作用を持つことが推測され、乾燥肌の改善に関与した可能性が考えられる。乾燥肌の改善には、真皮に存在する毛細血管への血流量を高め、皮膚のターンオーバーを正常化させることが重要であるとされている。人參養榮湯は血管拡張・血液流動性亢進に働き、血液循環を改善する⁹⁾。配合生薬の中でい

えば、人参・当帰・芍薬・白朮・桂皮は血管拡張作用、人参・当帰・芍薬は血小板凝集抑制作用、人参・当帰は線溶活性化作用、人参は赤血球変形能亢進作用、当帰・桂皮は血液凝固抑制作用を併せ持つことから¹⁰⁾、皮膚のターンオーバーを改善し、乾燥肌の改善に關与したものと考えられる。

疲労倦怠やストレスによっても肌状態が悪化することは報告されており³⁻⁴⁾、全身状態を含めた管理が重要である。今回の対象患者は、乾燥肌に加え疲労倦怠感や食欲低下が認められ、漢方医学では気虚の症状であると考えられた。「気は血の帥、血は気の母」という概念があり、血虚の患者は気虚症状も認められることが多い。人参養榮湯には補気作用を持つ人参・白朮・黄耆・茯苓・甘草が含まれており、慢性疲労症候群をはじめとする消耗性疾患にも使用されている¹¹⁾。今回、人参養榮湯の投与による気虚症状の改善を期待したが、疲労倦怠感については改善傾向が認められ、食欲低下については有意差は認められなかった。乾燥肌の背景にあると推定される疲労倦怠感については改善傾向が認められたことにより、乾燥肌の改善に寄与したものと考えられる。今後はさらに症例数を増やし、検討を加えたい。

本検討より人参養榮湯は乾燥肌及びその背景にある気虚症状に対し、有用な薬剤であることが示唆された。

【参考文献】

- 1) 那波絹恵 ほか: 内外美容素材ーコメ由来グルコシセラミドー. FOOD STYLE 21. 20: 46-49, 2016
- 2) 鈴木 定: 加齢による皮膚の変化. 月刊 総合ケア 4: 28-33, 2004
- 3) 吉田康弘 ほか: ストレスによるセラミド減少とその対処. 香粧会誌 27: 178-185, 2003
- 4) 松川達士: オルニチン摂取による疲れ肌改善効果. FOOD STYLE 21. 17: 28-30, 2013
- 5) 前田憲寿: 皮膚と化学ー内と外の境界ー. 化学と教育 65: 84-85, 2017
- 6) 横張龍一 ほか: シェーグレン症候群の眼乾燥症状および口腔乾燥症状に対する人参養榮湯の臨床効果. 臨床医薬 9: 1959-1968, 1993
- 7) 大川周治 ほか: 口腔乾燥症に対する人参養榮湯の効果. Prog. Med. 21: 1037-1039, 2001
- 8) 高田任康 ほか: 地黄を主成分とする漢方製剤ー四物湯ーの乾燥性皮膚疾患に対する皮膚保湿能への影響. 皮膚 29: 774-782, 1987
- 9) 矢久保修嗣 ほか: 人参養榮湯の冷えに対する改善作用の検討. 漢方と最新治療 6: 385-390, 1997
- 10) 石黒京子 ほか: 医療における漢方・生薬学. 廣川書店, 第2版, 2004
- 11) 小川良一 ほか: Chronic fatigue syndrome患者における人参養榮湯の臨床効果について. 和漢医薬学雑誌 8: 414-415, 1991